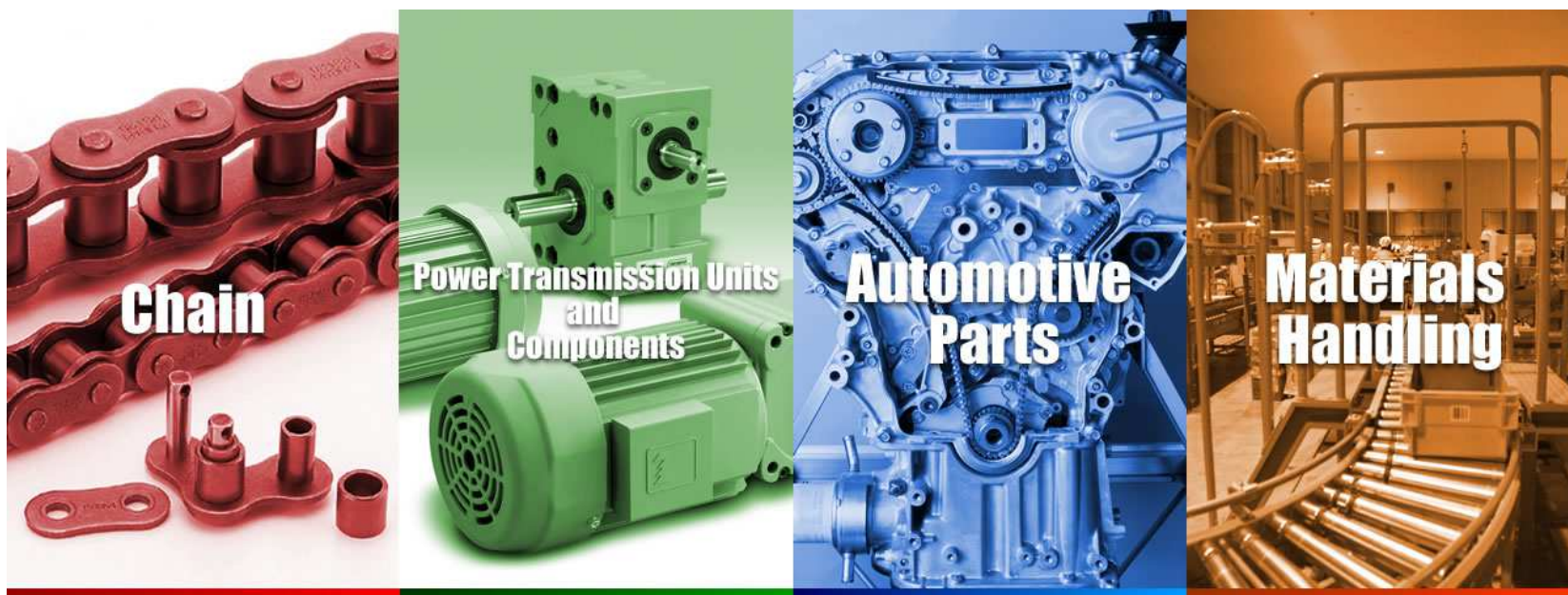


株式会社椿本チエイン 2012年3月期 決算説明会



2012年 5月21日

2012年3月期 通期業績報告

注) 本資料における「通期」は、当該連結会計年度における「4月1日～翌年3月31日」を示します。
(海外子会社の一部は「1月1日～12月31日」)

1. 12年3月期レビュー 連結決算ハイライト

- 円高、震災影響等の逆境の中、増収増益を達成。
営業利益は、予想（'11/8/5公表）を7.9%上回り着地。
- D/Eレシオは、0.30に改善。財務体質は、さらに強化。

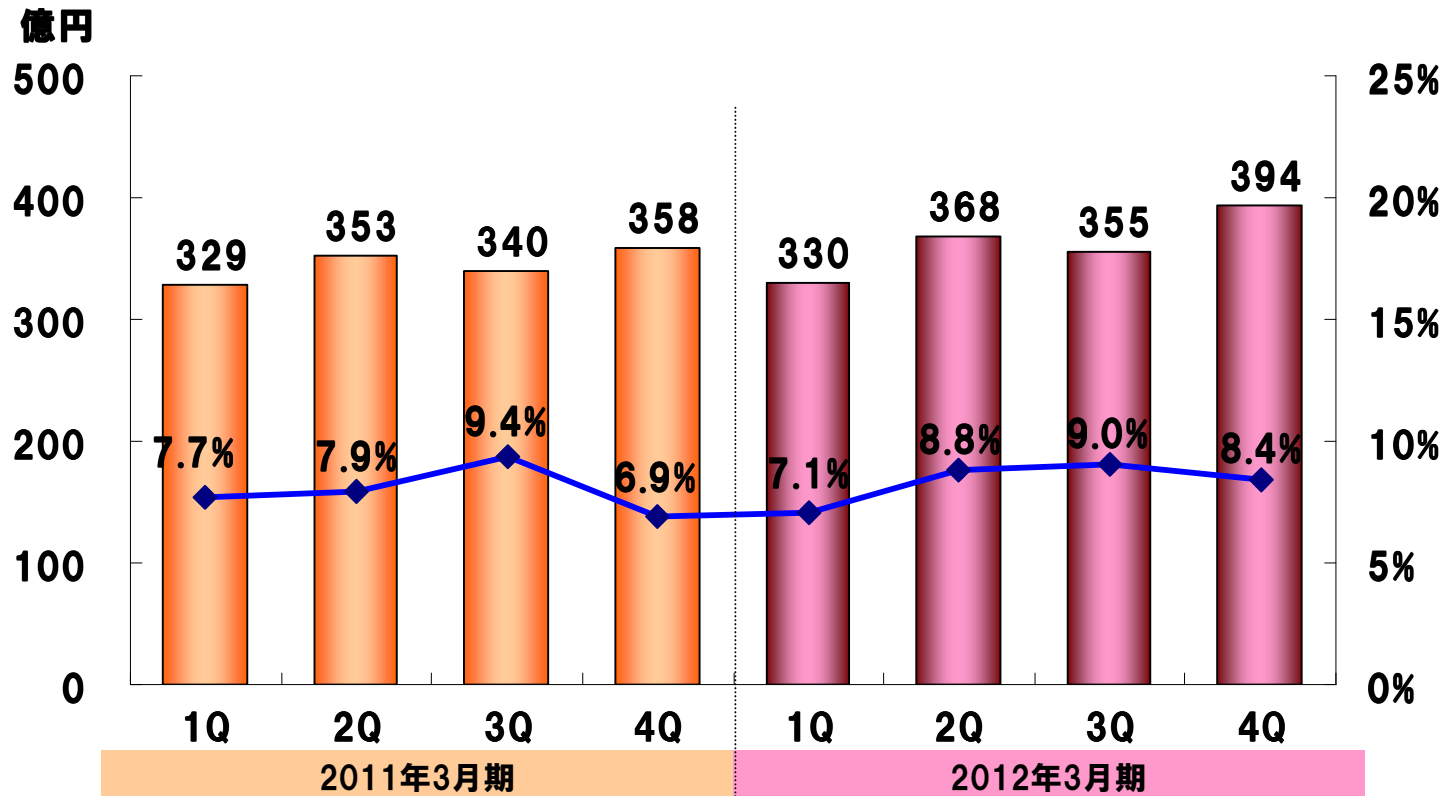
（単位：百万円）

	2011年3月期	2012年3月期	前期比	当社予想比	
	通期実績	通期実績	増減率	予想（'11/8/5）	増減率
売上高	138,243	144,896	4.8%	140,000	3.5%
営業利益	11,022	12,081	9.6%	11,200	7.9%
営業利益率	8.0%	8.3%		8.0%	
経常利益	11,111	12,140	9.3%	11,100	9.4%
当期純利益	6,093	6,814	11.8%	6,200	9.9%
1株当り当期純利益	32.76	36.60	—	33.33	—
（為替レート 1US\$）	85.74	79.07	—	82.00	（'11/11/11） 80円に変更
（為替レート 1EURO）	113.14	109.02	—	110.00	—
自己資本比率	45.3%	46.9%	自己資本/総資産		
自己資本利益率 (ROE)	7.4%	7.9%	当期純利益/期中平均自己資本		
D/E レシオ	0.37	0.30	有利子負債額/自己資本		

2. 12年3月期レビュー 四半期毎連結業績の推移

3

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）

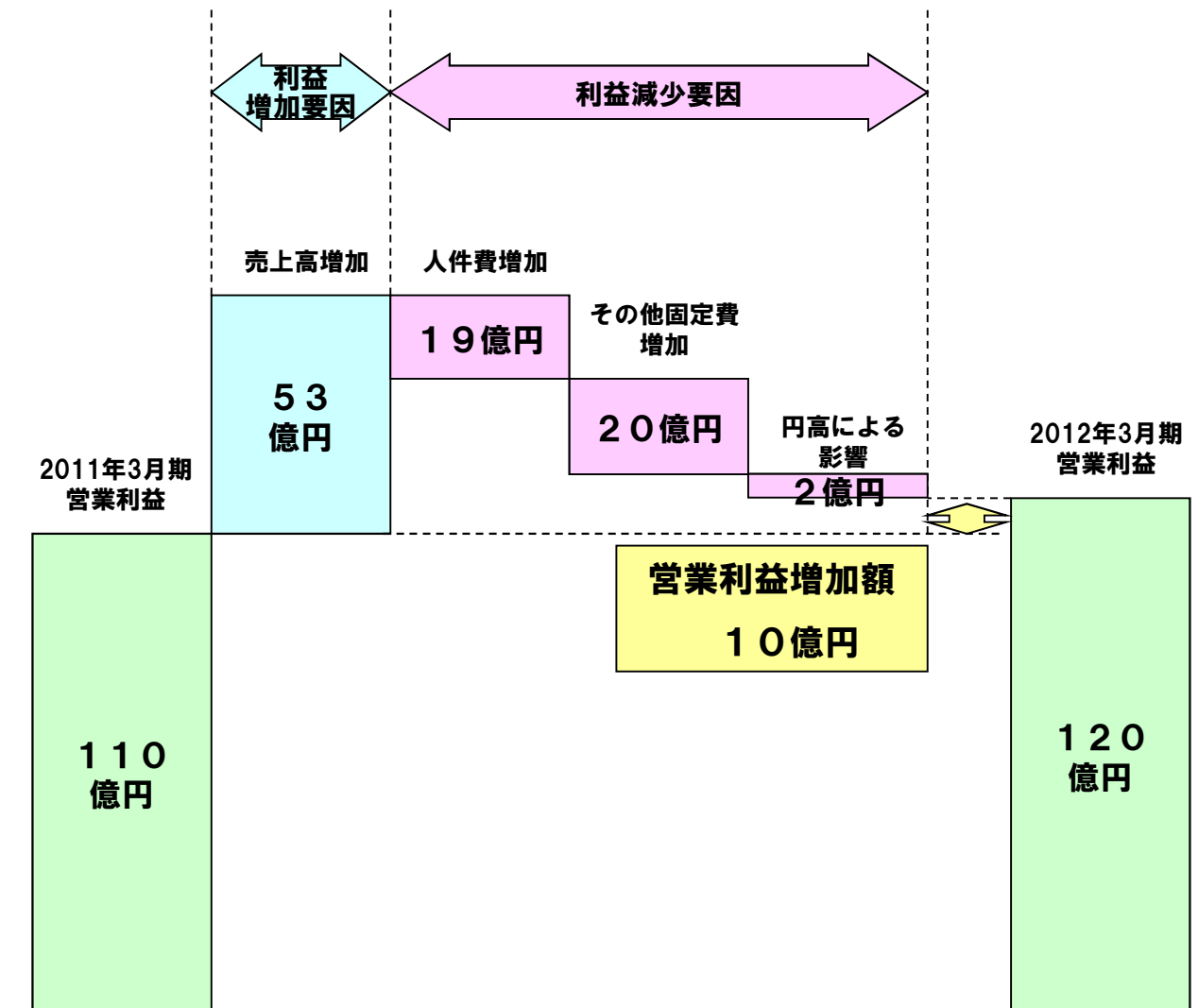


主な為替レート	2011年3月期	2012年3月期
US \$	85.74円	79.07円
ユーロ	113.14円	109.02円

単位：億円、：売上高、：営業利益率

3. 12年3月期レビュー 連結営業利益増減要因分析

2011年3月期実績 vs 2012年3月期実績



<営業利益増加要因>

- ①売上高増加 計53億円
 - ・売上高増加に伴う粗利増加

<営業利益減少要因>

- ①人件費増加 計19億円
 - ・生産増加に伴う労務費増加
 - ・業績回復に伴う給与、賞与増加 等
 - ②その他固定費増加 計20億円
 - ・生産増加に伴う経費増加
 - ・支払い手数料増加 等
 - ③為替(円高)影響 計2億円
- ※材料費の影響は、約1億円

4. 12年3月期レビュー- 事業セグメント別内訳

■ チェーン、精機、マテハンが大幅な増益。
自動車部品は、下期急回復。（営業利益は、前年同期比+32.1%）

（単位：百万円）

		2011年3月期	2012年3月期	前期比	当社予想比	
		通期実績	通期実績	増減率	予想('11/8/5)	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	48,262	51,692	7.1%	50,300	2.8%
	営業利益	2,780	3,462	24.6%	3,050	13.5%
	営業利益率	5.8%	6.7%		6.1%	
精機	売上高 ^{※注1}	20,061	21,364	6.5%	20,900	2.2%
	営業利益	2,065	2,512	21.6%	2,130	17.9%
	営業利益率	10.3%	11.8%		10.2%	
自動車部品	売上高 ^{※注1}	43,303	43,509	0.5%	43,000	1.2%
	営業利益	5,382	4,846	▲10.0%	4,530	7.0%
	営業利益率	12.4%	11.1%		10.5%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	26,340	27,977	6.2%	25,900	8.0%
	営業利益	215	878	307.1%	820	7.1%
	営業利益率	0.8%	3.1%		3.2%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	2,689	2,911	8.3%	2,650	9.8%
	営業利益	173	170	▲1.8%	150	13.3%
	営業利益率	6.5%	5.9%		5.7%	

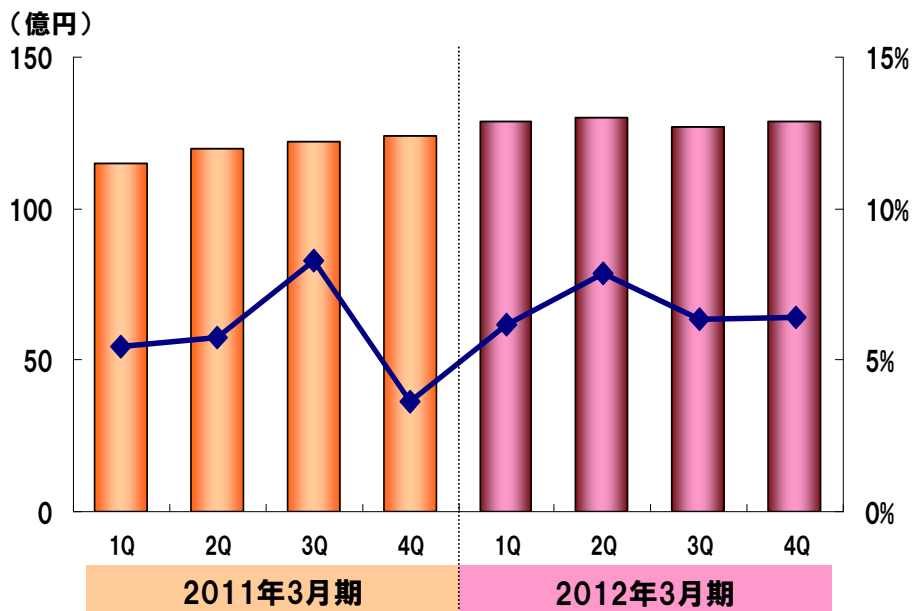
※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

5. 12年3月期レビュー 事業セグメント別概況

■ 売上高、営業利益率の推移

●チェーン事業



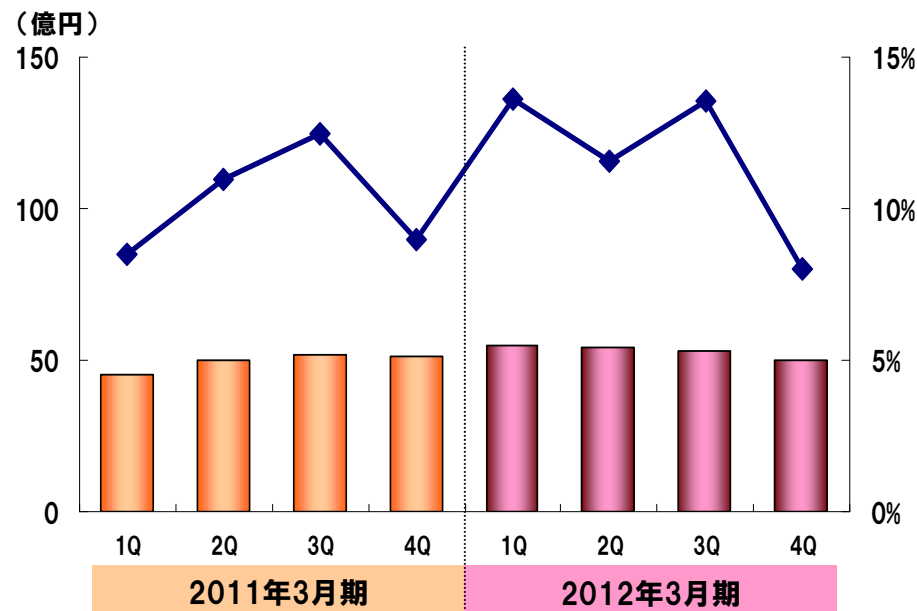
<業界別>

- 工作機械、鉄鋼、食品業界向けの販売が好調。

<地域別>

- 日本、北米、欧州など各地域で販売が好調。
- 昨年度に連結子会社化したカーベルシュレップ社（ドイツ）が黒字転換。収益性改善に貢献。

●精機事業



<業界別>

- 工作機械、造船業界向けは、好調に推移。
- 自動車、鉄鋼業界向けは、下期減速傾向。
- 液晶・半導体関連向けは、2Q以降失速。

<地域別>

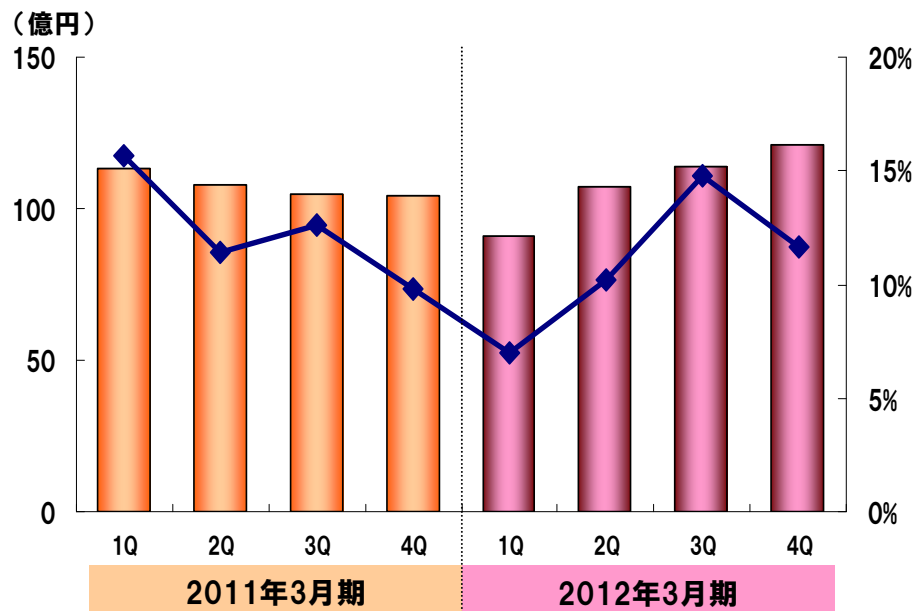
- 日本、中国を中心に各地域で販売が好調に推移。

単位：億円、 : 売上高、 : 営業利益率

5. 12年3月期レビュー 事業別セグメント概況

■ 売上高、営業利益率の推移

● 自動車部品事業

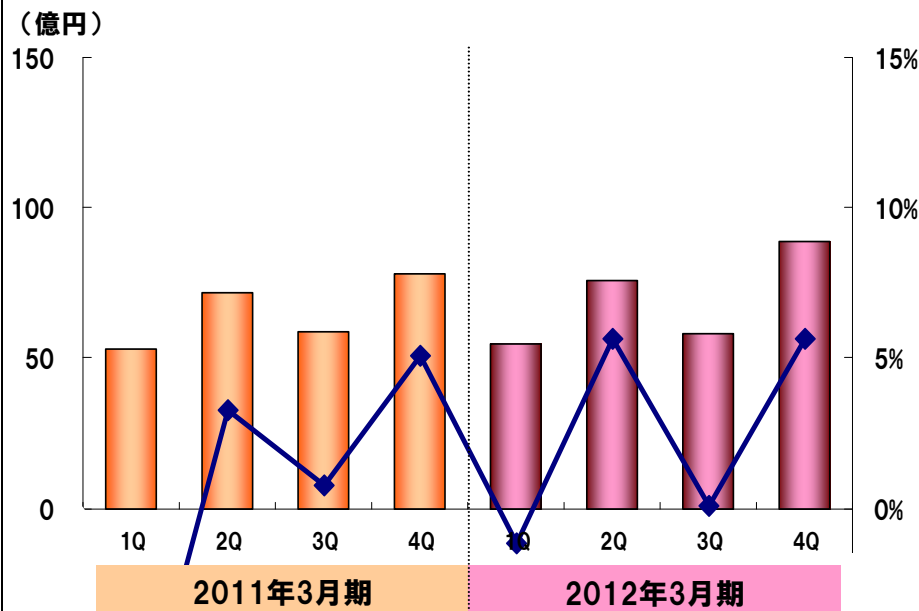


<地域別>

- ・ 震災影響などにより、前半は前年同期比で落ち込むも、後半挽回。
- ・ タイ洪水の影響は、限定的。
- ・ 日本、北米、欧州、タイ、中国でわずかながら前期比増収。
(海外は現地通貨ベース)
- ・ 韓国子会社が今年度1Qより新規連結。

● マテハン事業

※「2011年3月期 1Q」利益率=▲8.6%



<業界別>

- ・ 工作機械向けコンベヤが、前期比26%の増収。
- ・ 粉粒体搬送設備は、販売好調を維持。
- ・ 流通業界向けが、堅調。
- ・ 自動車業界向け、鉄鋼業界向けは低調。

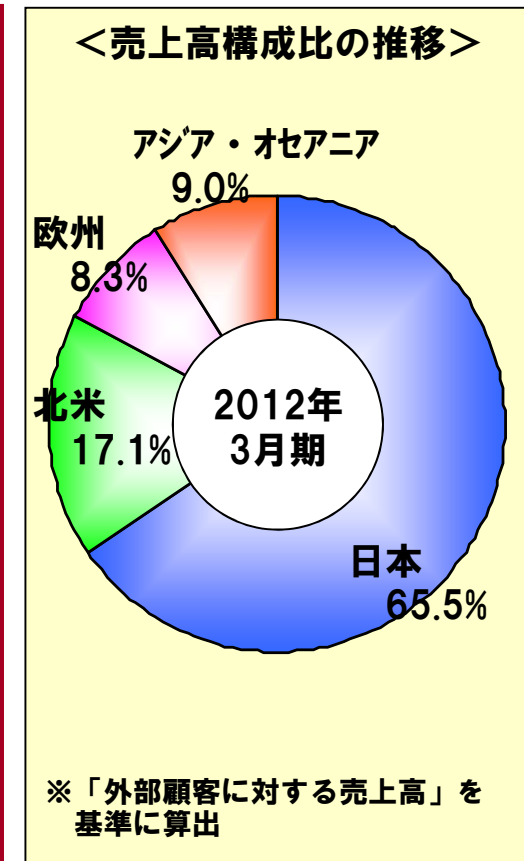
単位：億円、：売上高、：営業利益率

6. 12年3月期レビュー 所在地別セグメント

- 北米が大幅増益。欧州は黒字化。
震災、タイ洪水の影響等でアジア・オセアニアは減益。

(単位：百万円)

		2011年3月期	2012年3月期	前期比
		通期実績	通期実績	増減率
日 本	売上高 ^{※注}	108,607	112,940	4.0%
	営業利益	8,650	9,165	6.0%
	営業利益率	8.0%	8.1%	
北 米	売上高 ^{※注}	24,918	25,444	2.1%
	営業利益	1,077	1,338	24.3%
	営業利益率	4.3%	5.3%	
欧 州	売上高 ^{※注}	10,966	12,335	12.5%
	営業利益	▲ 323	242	—
	営業利益率	—	2.0%	
アジア・オセアニア	売上高 ^{※注}	12,972	13,910	7.2%
	営業利益	1,685	1,419	▲ 15.8%
	営業利益率	13.0%	10.2%	
その他	売上高 ^{※注}	72	89	24.0%
	営業利益	▲ 48	▲ 53	—
	営業利益率	—	—	
連 結	売上高	138,243	144,896	4.8%
	営業利益	11,022	12,081	9.6%
	営業利益率	8.0%	8.3%	



※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

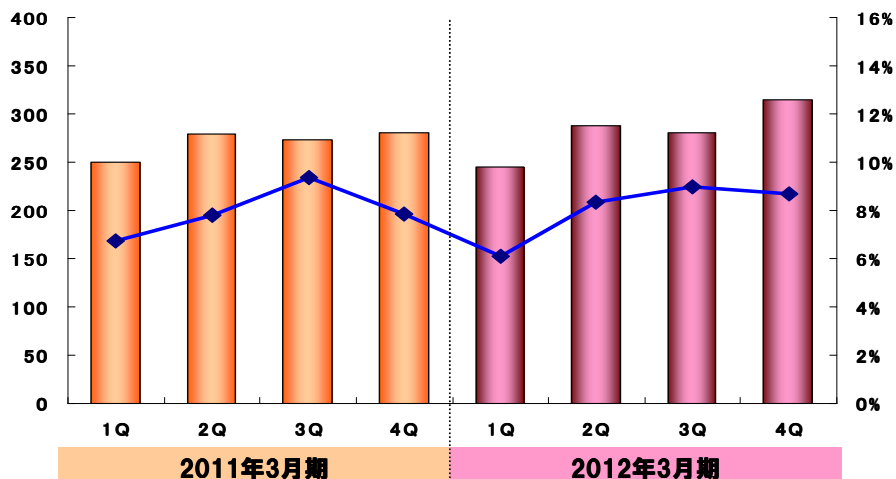
<主な実績レート>

'11/3期：US\$=¥87.54, EURO=¥113.14, Can\$=¥84.29, A\$=¥80.73, THB=¥2.77, NT\$=¥2.77, RMB=¥12.96

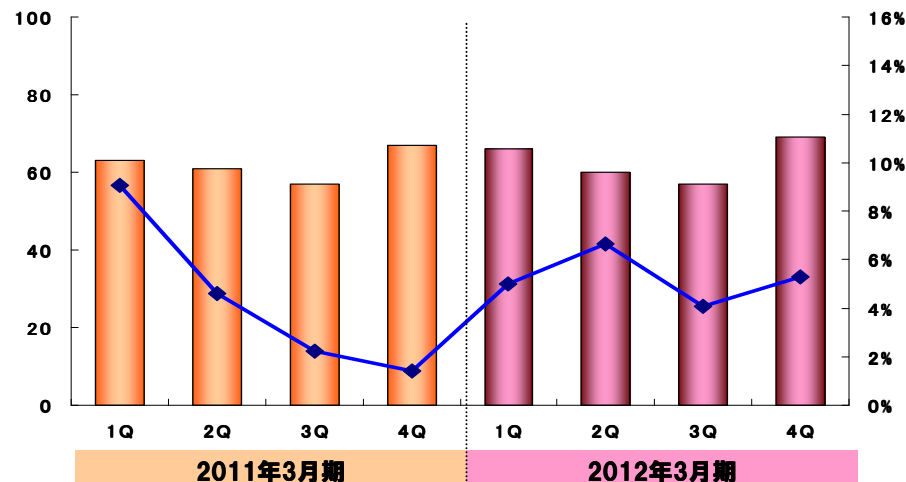
'12/3期：US\$=¥79.07, EURO=¥109.02, Can\$=¥79.72, A\$=¥82.72, THB=¥2.62, NT\$=¥2.68, RMB=¥12.34, WON=¥0.07

7. 12年3月期レビュー 所在地別四半期毎の推移

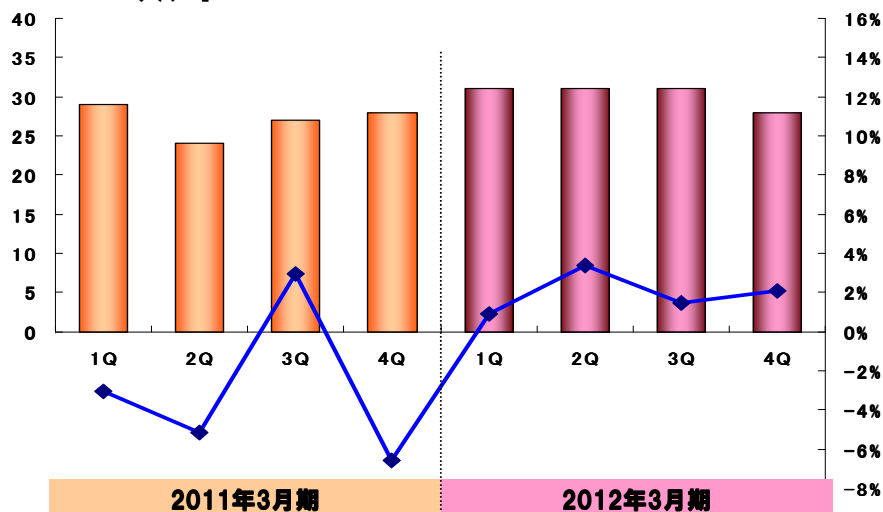
●日本



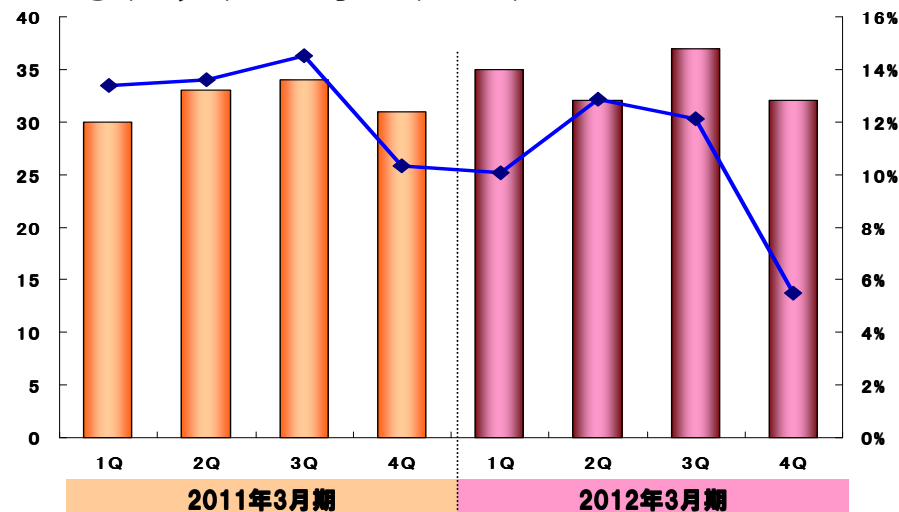
●北米



●欧州



●アジア・オセアニア

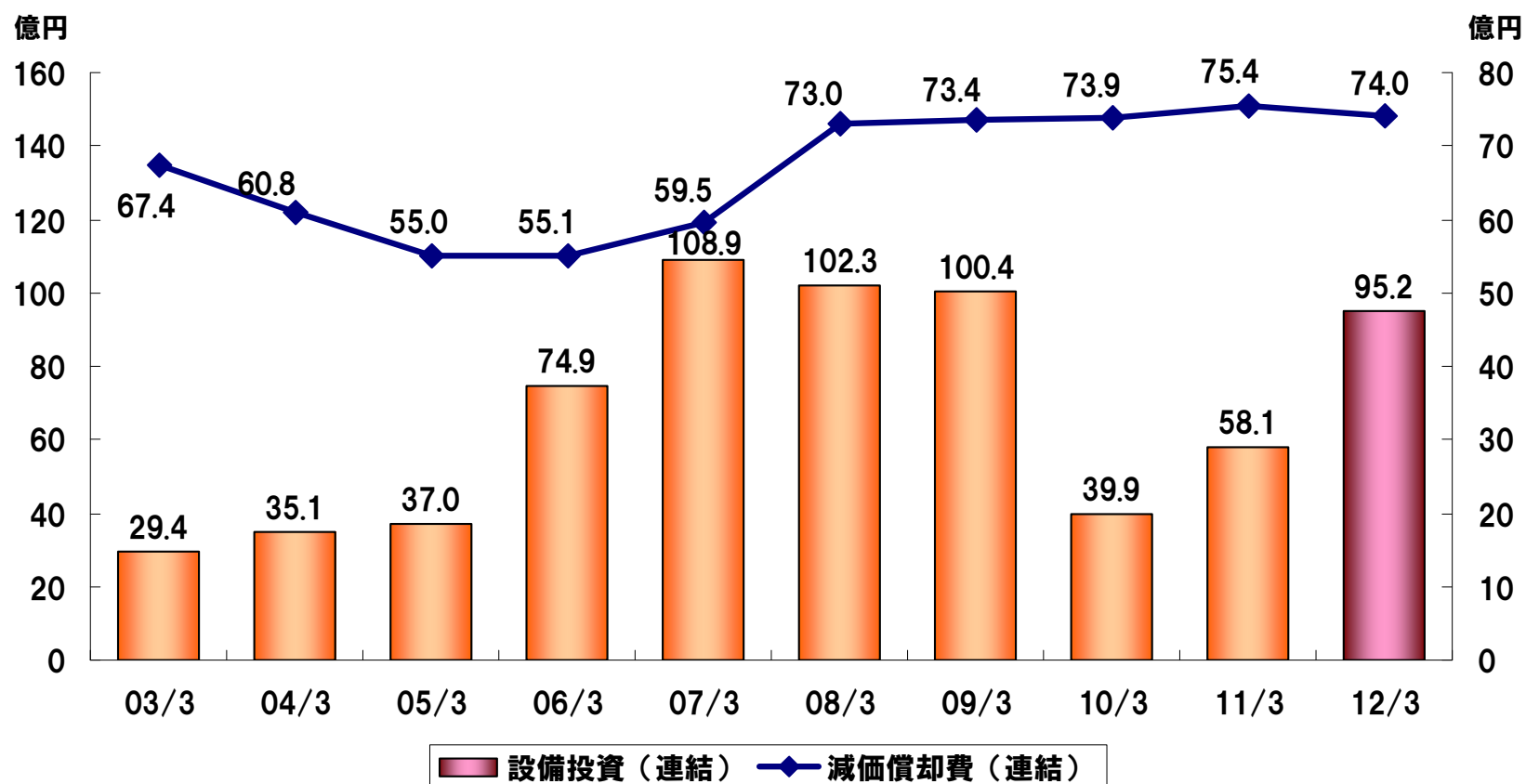


単位：億円、：売上高、：営業利益率

8. 12年3月期レビュー 設備投資・減価償却費

10

- 海外拠点の生産設備増強・埼玉新工場建設など、自動車部品事業を中心に設備投資を実施。



「中期経営計画2012」

重点課題進捗

1. 中期経営計画2012の骨子

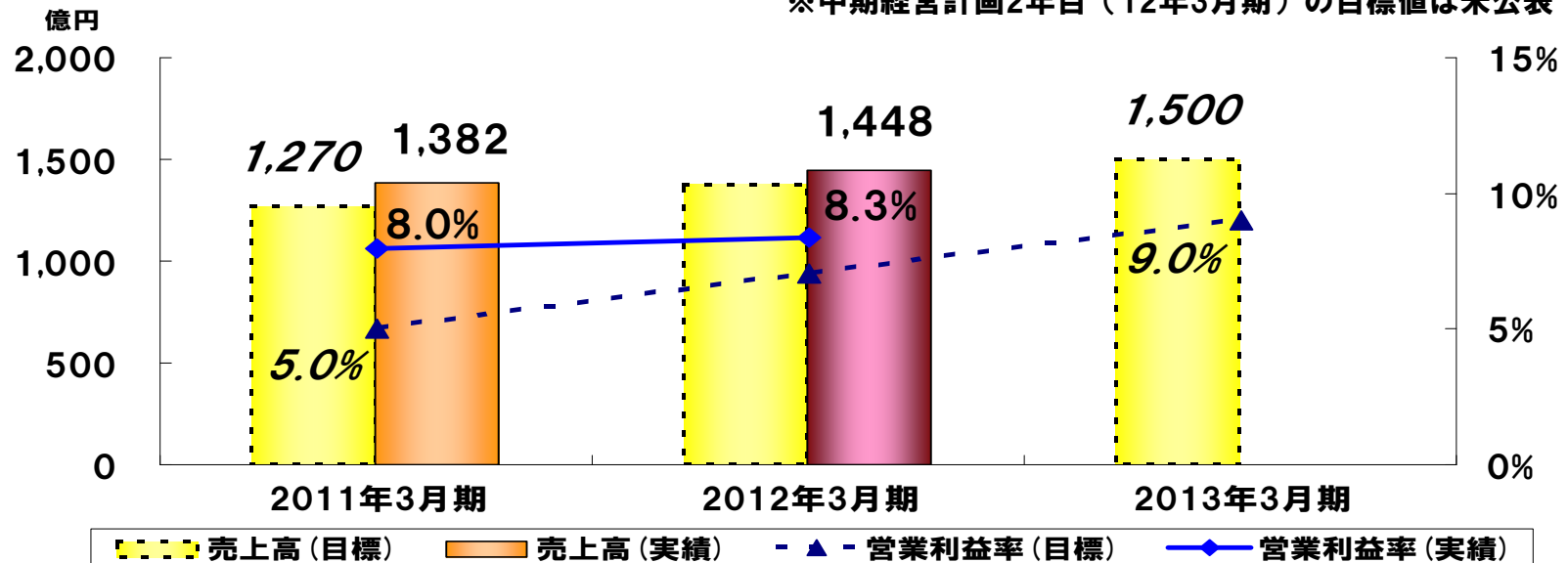
激変する事業環境に対応するための
経営基盤強化の3年間



中長期的視点から商品戦略、地域戦略を見直し、
収益体質の変革を図る

中期経営計画 連結業績目標

※中期経営計画2年目（12年3月期）の目標値は未公表



2. 「中期経営計画2012」基本方針

13

1. モノづくり企業としての基盤強化

2. ソリューション提供企業への変革

3. 顧客第一の徹底

4. グローバル・ベスト戦略の深耕

5. 人材育成

■ 5つの基本方針に基づき、重点課題達成に取り組む

3. モノづくり企業としての基盤強化

14

■ 「ダントツ活動」の展開と「技能」の強化

2011年度までの 成果・進捗	<p>①ダントツ工程づくりを全製造会社に水平展開 成果例：埼玉工場 自動車部品事業部 工程内不良率 '09/下：0.14% → '11/下：0.07%以下（売上高比）</p> <p>②「技能士」育成強化 成果例：「技能士資格」取得数（のべ人数）は、 5年間で約2倍に</p>
2012年度の課題	<p>①ダントツ工程づくりを成果につなげる ＜チェーン＞京田辺工場「革新ライン」の構築 ＜自動車部品＞「ものづくり改革活動」→ 埼玉新工場建設</p> <p>②技能伝承、現場のモチベーションアップ ・「製造指導職（トレーナー）制度」の新設 ・「つばき技能オリンピック」の開催</p>

■ エコ&エコ (Ecology & Economy) の展開

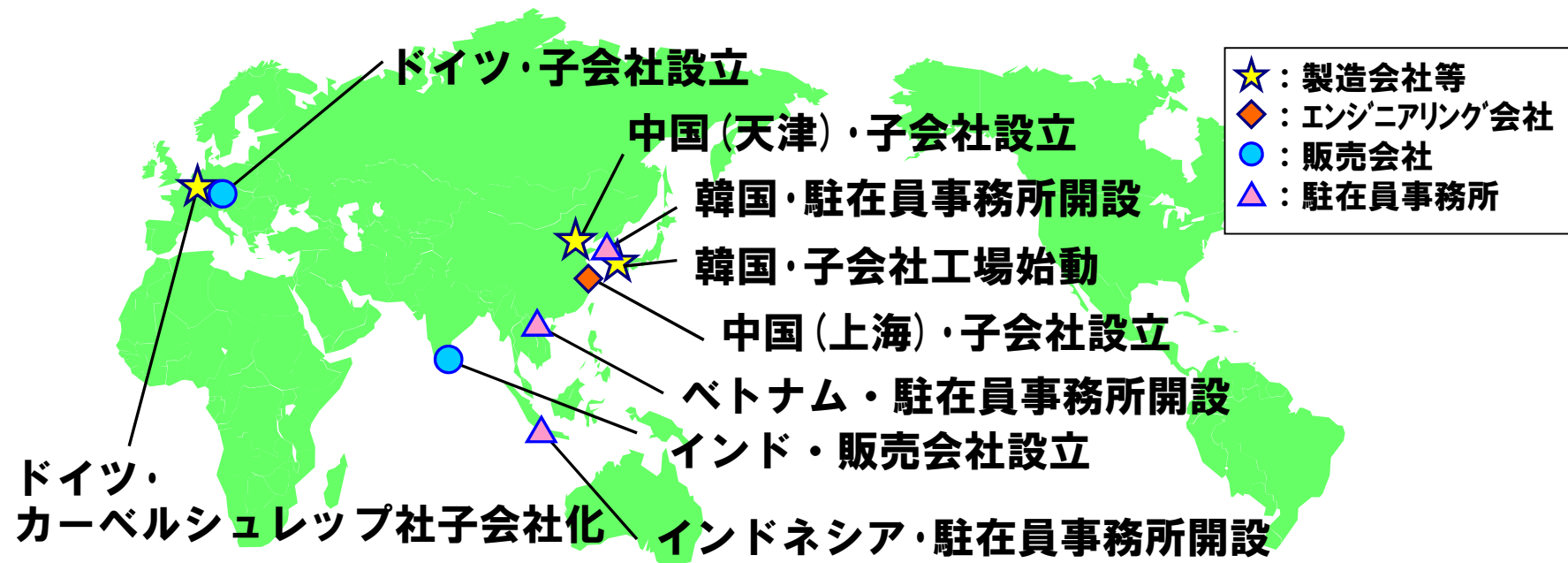
<p>2011年度までの 成果・進捗</p>	<p>ねらい：環境配慮で他社との差別化を図る</p> <ul style="list-style-type: none">・エコ商品の新発売：17件 <div data-bbox="734 539 1070 884"></div> <p>ジップチェーンアクチュエータ</p> <div data-bbox="1330 491 1809 884"><p>タイミングチェーン・ゼロテックシリーズ</p></div> <ul style="list-style-type: none">・3社10機種に納入開始・さらに6機種受注済み
<p>2012年度の課題</p>	<p>エコ商品のエコに対する顧客納得性向上</p> <ul style="list-style-type: none">・「つばきエコリンク」などによるPR、意識高揚・顧客メリットの創造・2012年度エコ商品（計画）：20商品 <div data-bbox="1765 1098 2011 1324"></div>

■ 海外拠点強化

<拠点再編>

- ・ 米国子会社分社 → CBO体制の強化（責任範囲の明確化）
- ・ カーベルシュレップ子会社（米国、中国など）を当社子会社に統合
→ 運営の一体化

<拠点拡充>



5. グローバル・ベスト戦略の深耕

■ ボリュームゾーン「中国市場」の攻略



コンベヤチェーンの市場競争力強化（チェーン）	
2011年度までの成果・進捗	・ チェーン製造拠点 「椿本鏈条（天津）有限公司」（TCT）設立、工場建設開始
2012年度の課題	・ コンベヤチェーンの現地生産開始（10月） → 中国コンベヤチェーン市場のシェア20%をめざす（2016年）

仕分けシステムの中国市場参入（マテハン）	
2011年度までの成果・進捗	・ エンジニアリング会社 「上海椿本物流系統設備有限公司」（TMS）設立 すでに1件の受注を獲得
2012年度の課題	・ 仕分けシステムの販売拡大



5. グローバル・ベスト戦略の深耕

■ 自動車部品 グローバルシェアの拡大



<p>2011年度までの 成果・進捗</p>	<ul style="list-style-type: none">①ドイツ販売子会社設立 → Volkswagen社より初受注②低コスト仕様「タイミングチェーンドライブシステム」 開発 → 低コスト仕様を2社から受注(約110万台/年)③世界6極生産体制の確立 (韓国子会社設立~2011年10月 工場立ち上げ)
<p>2012年度の課題</p>	<ul style="list-style-type: none">①世界トップ5メーカーのシェア拡大②中国市場でのシェアアップ③「ものづくり改革活動」による生産性の向上、 グローバル生産体制強化による増産対応、リスク低減



埼玉工場 (マザー工場)



米国



英国



タイ



中国 (上海)



韓国

2013年3月期 業績予想

1. 13年3月期 連結業績予想

■ 円高が進み、為替前提が大幅に変化する中、
中期経営計画の数値目標達成を予想

(単位:百万円)

	2012年3月期	2013年3月期			前期比	中期経営計画 目標値
	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	増減率	
売上高	144,896	73,000	77,000	150,000	3.5%	150,000
営業利益	12,081	5,800	7,700	13,500	11.7%	13,500
営業利益率	8.3%	7.9%	10.0%	9.0%		9.0%
経常利益	12,140	5,900	7,500	13,400	10.4%	-
当期純利益	6,814	3,300	4,400	7,700	13.0%	-
1株当たり当期純利益	36.60円	-	-	41.14円		-
(為替レート 1US\$)	78.98円	-	-	77.00円		85.00円
(為替レート 1EURO)	110.62円	-	-	103.00円		115.00円
1株当たり配当金(円)	7.00	3.00	4.00	7.00		-

2. 13年3月期 事業セグメント別業績予想

21

- 自動車部品は、大幅な増収増益。
チェーン、精機、マテハンの売上高は、横ばい圏と予想。

(単位：百万円)

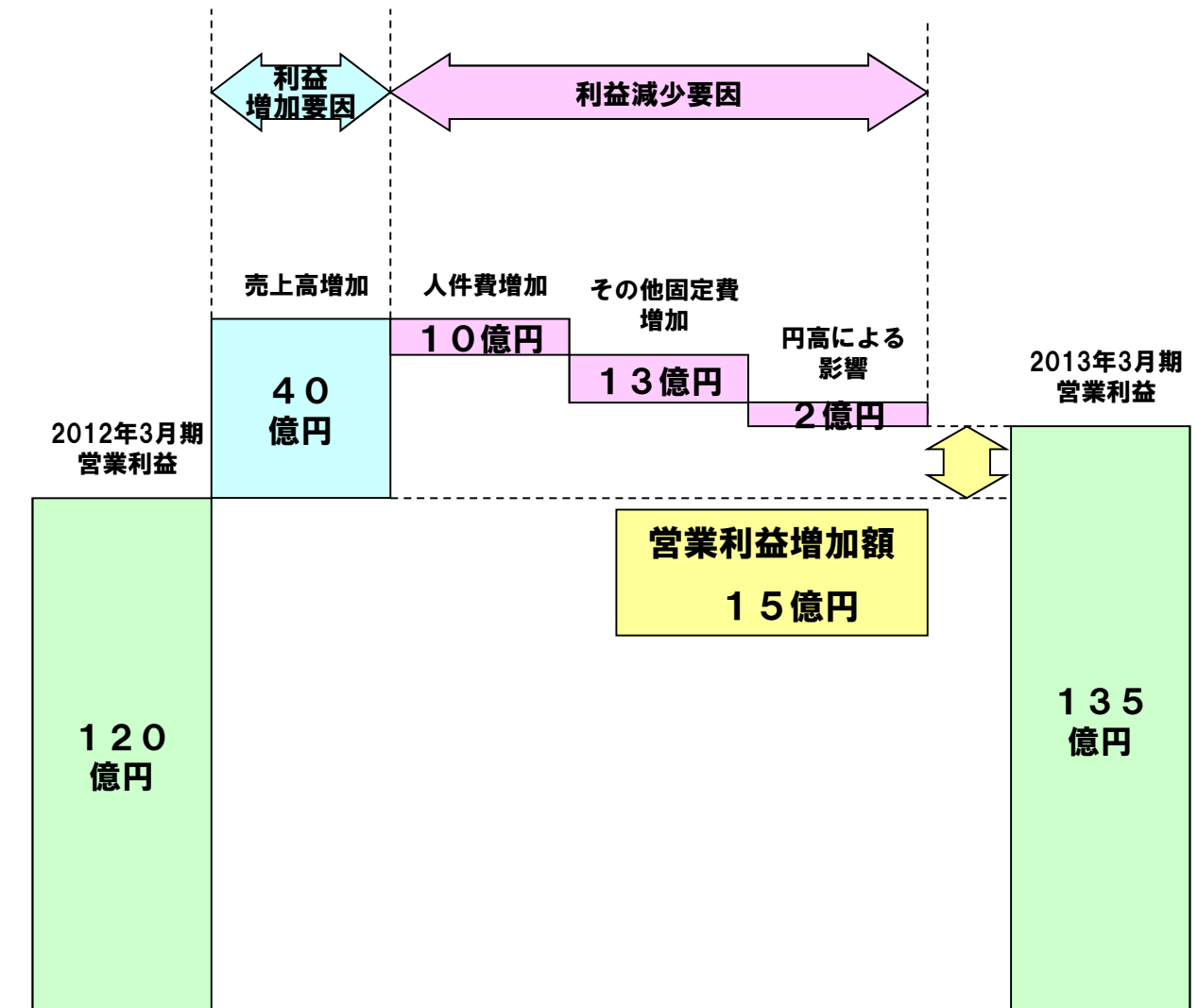
		2012年3月期	2013年3月期			前期比	中期経営計画 目標値
		通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	増減率	
チェーン	売上高 ^{※注1}	51,692	25,900	26,700	52,600	1.8%	52,400
	営業利益	3,462	1,700	2,060	3,760	8.6%	4,260
	営業利益率	6.7%	6.6%	7.7%	7.1%		8.1%
精機	売上高 ^{※注1}	21,364	10,500	10,800	21,300	▲0.3%	20,700
	営業利益	2,512	1,140	1,250	2,390	▲4.9%	1,890
	営業利益率	11.8%	10.9%	11.6%	11.2%		9.1%
自動車部品	売上高 ^{※注1}	43,509	23,500	25,700	49,200	13.1%	47,200
	営業利益	4,846	2,500	3,500	6,000	23.8%	5,160
	営業利益率	11.1%	10.6%	13.6%	12.2%		10.9%
マテハン	売上高 ^{※注1}	27,977	13,100	14,100	27,200	▲2.8%	29,400
	営業利益	878	360	630	990	12.8%	1,900
	営業利益率	3.1%	2.7%	4.5%	3.6%		6.5%
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	2,911	1,430	1,410	2,840	▲2.4%	3,300
	営業利益	170	80	110	190	11.8%	200
	営業利益率	5.8%	5.6%	7.8%	6.7%		6.1%

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※注2：「その他」は、報告セグメントではありません。

3. 13年3月期 連結営業利益増減要因分析

■ 2012年3月期実績 vs 2013年3月期予想



<営業利益増加要因>

- ①売上高増加 計 40億円
・売上高増加に伴う粗利増加

※材料費の影響は、約1億円
(鋼材価格下落も
樹脂製品価格が上昇)

<営業利益減少要因>

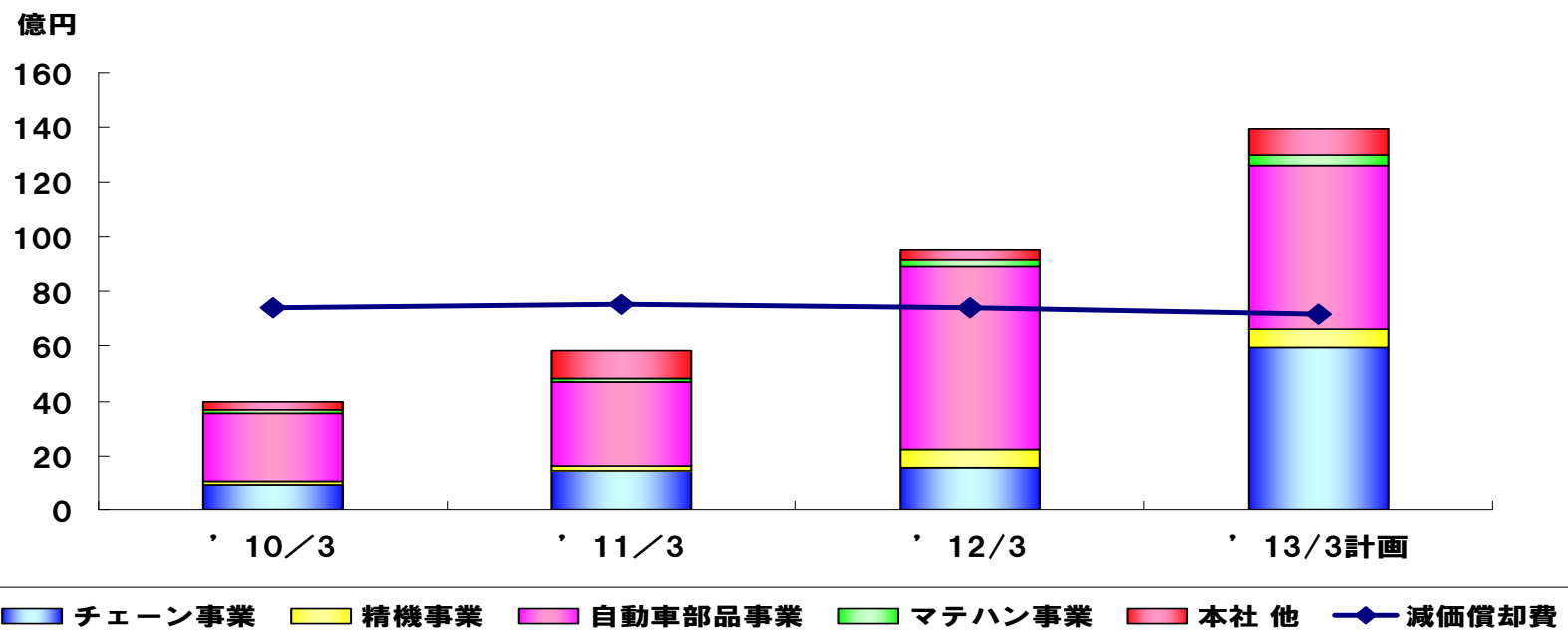
- ①人件費増加 計 10億円
- ②その他固定費増加 計 13億円
- ③為替(円高)影響 計 2億円

4. 13年3月期 設備投資について

■ 主な設備投資

- ① 中国(天津)子会社の製造工場建設関連(チェーン事業)
- ② 自動車部品事業のグローバル生産体制強化

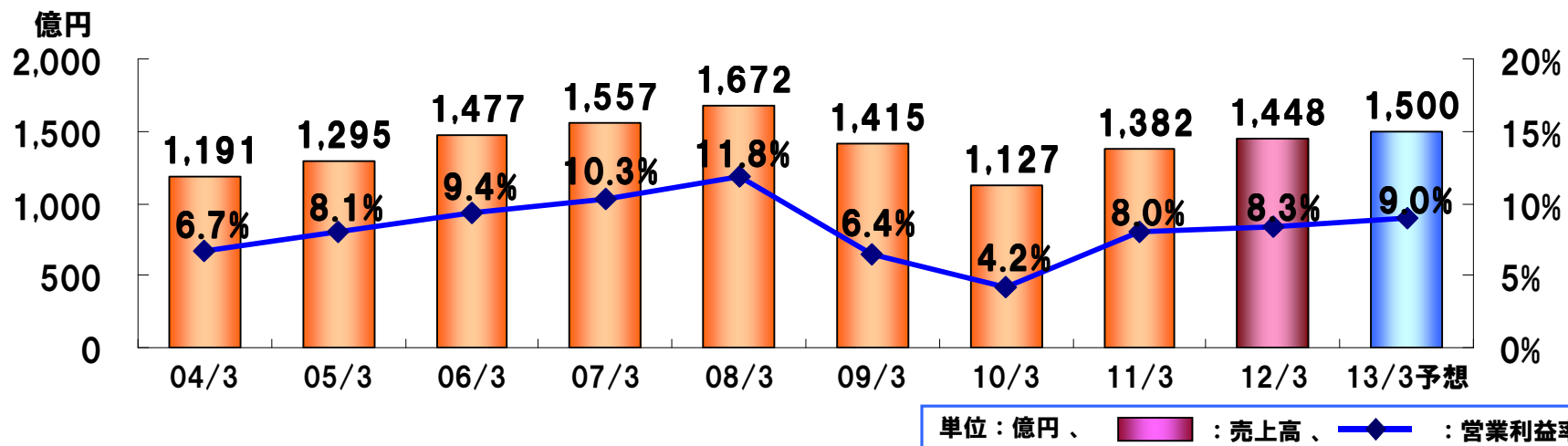
■ 設備投資と減価償却費の推移



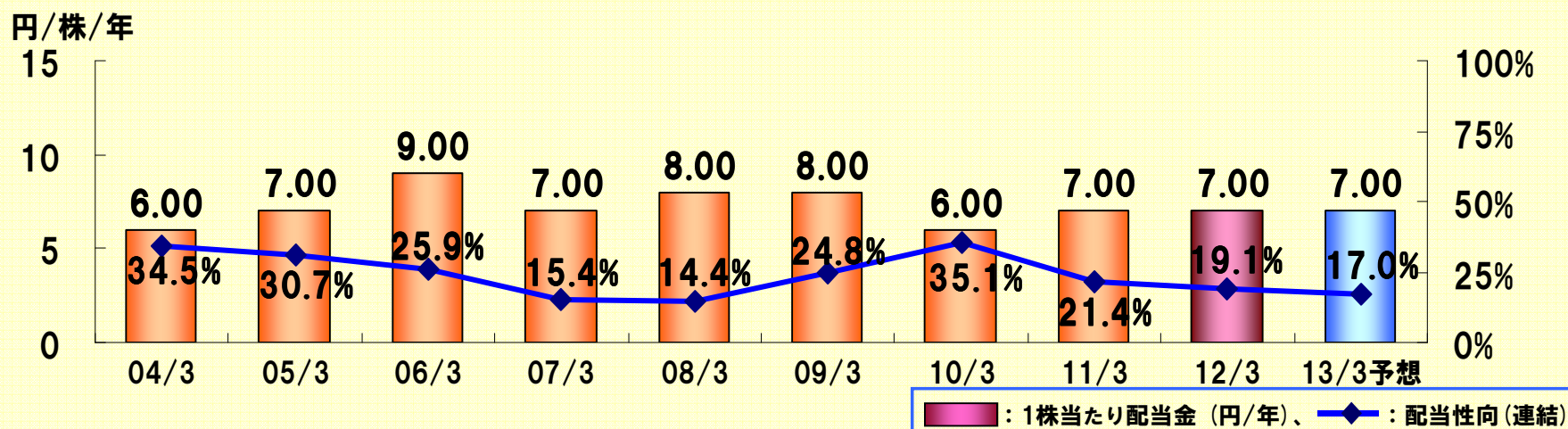
設備投資	39億円	58億円	95億円	140億円
減価償却費	73億円	75億円	74億円	72億円

5. ご参考データ

■ 売上高、営業利益率の推移（連結）



■ 1株当たり配当金の推移



本資料に記載されている事業計画および業績見通し等に関する記述は、各資料の作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績見通しとは異なる結果になりうることをご承知おきください。